

令和4年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館協会小中学校図書館部会

副部長 中野市立中野平中学校 小山 正博

令和4年度の長野県図書館協会小中学校部会では、昨年度に引き続き「学びと心のより所となる学校図書館—学校内・外の連携による読書・学習・情報センター機能の構築を目指して—」のテーマのもと活動を行ってきました。本年度も新型コロナウイルス感染拡大のため参集しての活動は十分にはできませんでしたが、オンラインも併用したハイブリットな形で活動を行うことができました。

昨年、一昨年度は、学校司書委員会、司書教諭委員会を合同で行いましたが、今年度からはそれぞれで活動を行いました。例年ですと長野県図書館大会の分科会で学校司書委員会、司書委員会それぞれの発表があったのですが、今年度は発表がなかったため、これまで懸案だった「学校図書館実務マニュアル改訂版」の見直しを12年ぶりに学校司書委員会で行うこと、昨年度、北信越地区学校図書館研究大会の分科会B（中学校）を担当していただいた長野市立朝陽小学校の山崎裕子先生の発表資料が著作権の関係で、新聞記事等をオンラインでお見せすることができなかったことから司書教諭委員会では、著作権について調査活動をするようになりました。

学校司書委員会では、4つのグループに分かれて「学校図書館実務マニュアル改訂版」の担当ページを決めて、改変すべき内容を次の委員会までに検討して、委員会の全体の場で発表、質疑応答を通じてさらに改定するというを行いました。今年度は各グループの担当箇所を修正して、来年度は全体でマニュアルの読み合わせを行い、最終的には全国学校図書館（SLA）に審査していただく予定です。

司書教諭委員会では、学校が児童生徒に本を紹介等する際の、表紙画像等の著作権について、著作権法改正に基づく「授業目的公衆送信保証金制度」等の関連法法規の理解、2018年度の著作権改正により創設された「授業目的公衆送信補償金制度」の実情と公衆送信の関連についての調査を行いました。その中で、著作権に係る研修は、学校図書館に直接的にかかわっていただいている学校司書、司書教諭、学校図書館係などの先生方だけでなく広く学校教育に携わるすべての職員の方々と共有したい事項であることが判明しました。そこで、ステップアップ研修として、「学校教育におけるICT活用と著作権」と題して、公益社団法人全国学校図書館協議会顧問の森田盛行先生を講師に招いて、司書教諭委員会で調査したことについてご助言をいただいたりICT活用と著作権についてご講演をいただいたりしました。

最後になりましたが、本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応策を工夫され、学校図書館運営に尽力されていらっしゃる長野県図書館協会小中学校図書館部会の皆様にお礼を申し上げますとともに、今後も「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての図書館運営をお願いしまして、活動報告といたします。

支部だより

諏訪支部

諏訪支部代表 諏訪市立四賀小学校 赤羽 素乃

諏訪支部は（岡谷市・下諏訪町・諏訪市・茅野市・原村・富士見町）小学校28校、中学校17校、計45校で組織されている。各図書館関係諸団体と連携しながら活動を進めてきた。

1 活動内容

(1) 第45回長野県読書感想文コンクール応募

支部審査日 諏訪教育会館 審査委員12名

第1回審査 9月 5日（月） 第2回審査 9月26日（月）

応募総数 265編（小学校 186編 中学校 79編）

県送付作品数 49編（小学校 39編 中学校 10編）

(2) 諏訪支部総会 5月26日（木）

○令和3年度事業報告・決算報告

○令和4年度事業計画・組織編制・予算案承認

○令和5年度の負担金承認

○各種大会、研修講座、読書感想文コンクールに関する説明

(3) 図書館大会への参加

第72回長野県図書館大会（下伊那大会）への参加

10月29日（土）飯田市文化会館＋サテライト会場（5会場） 希望会場への参加

(4) 各校への情報提供

各種大会、ステップアップ（専門）研修や各種講座への参加案内

読書感想文コンクールに関して、小中学校推薦図書 他

(5) 次年度南信地区学校図書館大会について

令和5年度南信大会諏訪地区開催の準備（開催会場、開催日の決定、組織づくり等）

2 活動を振り返って

○読書感想文コンクールは、各校の協力で円滑に進めることができた。今後も多くの児童・生徒が活躍できる機会となるよう大切に位置づけていきたい。

○今年度の長野県図書館大会が参集とオンラインの併用での開催となったが、このようなハイブリットな参加方法であると大変参加しやすいと思った。

○令和5年度の南信大会に向けて準備が始まっているが、各学校や公共図書館とも連携を図り、今後の学校図書館の役割やあり方について考えていきたい。

更埴支部

更埴支部代表 坂城町立村上小学校 柄澤 俊彦

更埴支部は、千曲市と坂城町の小学校12校、中学校6校、計18校で組織されています。各図書館関係団体と連携しながら活動を進めてきました。

1 活動内容

(1) 更埴図書館協会総会

- ・ 7月5日（火）千曲市総合教育センターをメインにハイブリットで開催
- ・ 内容 令和4年度役員及び組織の承認
令和3年度事業報告及び決算報告・承認
令和4年度事業計画・予算の承認、次年度以降の役員順番の確認
情報交換（小中学校司書部会）

(2) 第45回長野県読書感想文コンクール

- ・ 更埴支部審査会：9月15日（木）村上小学校
- ・ 応募総数：115編
（小学校 低学年2編 中学年32編 高学年31編 中学校50編）
- ・ 県送付代表作品：36編
（小学校 低学年2編 中学年11編 高学年12編 中学校11編）

(3) 読書感想画コンクール

- ・ 応募作品については、各学校より県立図書館に送付

(4) 図書館大会への参加

- ①第43回全国学校図書館研究大会 オンライン大会
期日：8月3日（水）～31日（水）
※オンラインでの参加
- ②第72回長野県図書館研究大会 [飯田下伊那大会] 一部サテライト開催
期日：10月29日（土）
会場：飯田文化会館＋サテライト会場
※サテライト会場（県立長野図書館）にて参加
- ③北信地区学校図書館教育研究大会（長水支部）
期日：11月30日（水）
会場：長野市立松代中学校、綿内小学校
※長水支部のみの開催のため不参加

2 活動を振り返って

- ・ 公共図書館部、学校図書館部ごとに活動計画を作成し、計画に沿って活動を実施している。本年度の支部総会では小中学校司書部会のみ参集して情報交換を行った。
- ・ 読書感想文コンクールへの応募を各校に依頼し、多くの応募があった。更埴地区審査会では、各小中学校の審査員が一堂に会し、それぞれの担当部門に分かれて審査を行っている。
- ・ 役員順番表が令和4年度までしかなかったもので、令和5年度から令和11年度までの順番表を作成した。併せて現状を鑑み、会則についても検討した。令和5年度の支部総会で、会則の改正とともに役員順番表についての承認を行う。

読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

担当幹事 長野市立豊栄小学校 関川 あかね

令和4年度、第45回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：364校	◇応募作品数：3260編	※小・中合計数で表示
◇県入選（県応募）作品数：548編	◇県入賞作品数：265編	
◇中央審査会応募作品数：8編	◇中央入賞作品数：なし	

応募校数については、昨年度より3校増加し応募作品数も296編と増加しました。児童数の減少や教育課程の改訂に伴う教育活動の多様化で読書や感想文指導に十分な時間を掛けられないことやコロナ禍に見舞われ教育活動に制約があったことなどから、ここ数年は減少傾向にありました。今年度も新型コロナウイルス感染症は収束のないままですが、コロナ禍での学校生活も定着してきており、ほぼコロナ前の応募数となりました。素晴らしい作品を多く応募していただき、各支部や各校の皆様のご指導に感謝いたします。

支部・県審査委員の先生方には、多くの感想文を精読し厳正に審査していただきました。また、小・中学校図書館部会OBの先生方には審査のお手伝いをいただきました。あわせて御礼申し上げます。

県審査にあられた先生方からは、「自分の経験を重ねて、これからのことや今までのことに思いをよせている作品があったことが読んでいて心が温かくなった。本が好きという気持ちが溢れた作品もあり大事なことだと思う。」「思いを自分の言葉で書くことができる子どもたちを感じた。また、いかに実体験を読んだ本に結びつけられるか、その重要さに気づかされた。SNSなどで簡単に伝えることができる現代だからこそ、あえて書いて伝える一字一字には、書いた人の思いが強く受け取れる。」「忙しい学校生活の中で本と真摯に取り組む姿が垣間見え素晴らしいと思う。指導者の先生方のご苦勞を思うと大変だと思うが『読書感想文を書く』機会を設けていただけると有難いと感じる。」等の貴重な感想をいただきました。

一方で、作文の基本的な表記についての誤りや誤字、字数過不足な作品が、どの部門にも見られました。また、今年度は、支部の応募総数や県審査応募数を記載する「応募状況」の表がないものや応募票に「類」が誤って記載されているもの等、応募の際の不備が目立ちました。インターネットの活用については、読書感想文の書き方サイトを、構成や表現等のかなりを参考にしたのではと思われる作品がありました。

今後は、審査要項に沿った応募や読み直しや推敲等の見届け等の指導と共に情報リテラシーの観点からも各学校や支部審査の段階での指導や確認をお願いしていきたいと思えます。

令和4年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：28校	◇応募作品数：379点	※小・中合計数で表示
◇中央コンクール応募作品数：10点	◇中央入賞作品数：0点	

本年度の応募校は昨年度より9校増え28校となりましたが、応募作品数は、昨年度の412点より減少しました。応募の締め切りが3学期のため、年度当初より年間指導計画に位置付けていただけよう早めの呼びかけに努めていきたいと思えます。

応募作品の審査にあたっては、本と出会った子どもたちが、その作品世界のどんなことに心揺さぶられ、自分の発見や感動を表現しようとしているかを念頭に作品を選定するよう心掛けました。素晴らしい作品を寄せていただいた各学級の担任や部活顧問の先生方の丁寧なご指導に感謝申し上げます。

最後になりましたが、両コンクールにご尽力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。今後も、子どもたちへの読書の啓発や意欲的な作品の応募を賜りますようお願い申し上げます。